



大阪+知的障害+地域+おもろい=創造

知の知の知の知

社会福祉法人大阪手をつなぐ育成会 社会政策研究所情報誌通算 4044 号 2017.11.27 発行

漫画やアニメでパラスポーツの魅力発信 知名度アップ期待も独特ルールなど課題も



産経新聞 2017年11月27日
井上雄彦さんが描き下ろした「TOKYO 2020 パラリンピックジャンプ Vol. 1」の表紙イラスト (c) I. T. Planning, Inc.



3年後の2020年東京パラリンピック開催を前に、漫画やアニメの題材に、パラスポーツ（障害者スポーツ）を取り上げる動きが相次いでいる。集英社は今月、パラスポーツを漫画で特集するムック本を発売。NHKも各種競技の魅力伝える短編アニメをスタートさせた。過去には、サッカーやバスケなど、漫画やアニメがきっかけで人気に火が付いた競技も多く、パラスポーツの普及や知名度アップにも期待がかかる。（本間英士）

大会1000日前の節目

東京大会開催の1千日前となる29日、集英社はムック本「TOKYO 2020 パラリンピックジャンプ Vol. 1」を発売する。視覚障害のある柔道家をモデルにした「タフ番外編」、ボッチャがテーマの「潜入！ボッチャ」など4編の作品を掲載。車いすテニスのエース、上地結衣選手の競技人生を漫画にした「カミジ！」では、昨年のリオデジヤネイロ大会から物語が始まり、東京大会に向けての努力の日々が描かれる。

これまでほぼ前例のなかったアニメ化も実現した。NHKは今月10日から、短編アニメ「アニメパラ あなたのヒーローは誰ですか」（BS1）を不定期で放送。視覚障害者の選手らがプレーするブラインドサッカーと、パラ陸上の2競技を映像化した。

ブラインドサッカー編の原作は、「キャプテン翼」で知られる高橋陽一さんが担当。日本代表が磨き抜いたパスで王者・ブラジルに挑むストーリーで、独特のルールが自然と理解できる作りになっている。「トルネードタイガー」といった必殺技も登場する。

「報道とドキュメンタリーだけでは魅力を伝えきれないが、アニメを加えることで幅広い層にアプローチできる」（上田和摩チーフプロデューサー）として、今後は紹介する競技数を増やし、総合テレビやEテレでも順次放送する。高橋さんは「（独特のルールなど）パラスポーツは“取っかかり”が難しい。作品をきっかけに、認知度が高まれば」と話す。

漫画やアニメがきっかけで、スポーツ人気に火が付いたケースはよく知られている。

高橋さんが昭和56年から手掛ける「キャプテン翼」では、国内のサッカー人気は急上昇し、プロを目指した選手も少なくない。平成2年に始まった井上雄彦さんの「スラムダンク」は、若者のバスケブームを呼び込んだ。

「漫画やアニメは若年層に人気のあるコンテンツ。次世代を担う方々に、ぜひパラリンピックに関心を持ってもらえれば」。こう語るのは、東京都の安達紀子・パラリンピック部事業推進担当課長。

都は平成27年度から、パラスポーツへの理解を深めてもらおうと、その魅力を漫画や映像で発信する「Be The HERO」プロジェクトを始めた。都が昨年行った世論調査によると、パラスポーツに「関心がある」と答えた人は全体の58%で前年より13%増えた半面、この1年間に実際に競技会場などで観戦経験のある人は1・3%にとどまっている。

都は現在、プロジェクト第2弾の新作映像を制作中で、安達さんは「2020年には『会場で応援したい』と思ってもらえるとうれしい」と意気込む。

ヒーローも誕生!?

一方で、制作における課題も多い。パラスポーツを扱った作品は、車いすバスケットをテーマとした井上さんの「リアル」(平成11年開始)などごくわずか。競技のルールが独特なため、取材に多くの時間がかかり、描く際の表現方法も難しいからだ。集英社のムック本の発行人を務める田中純取締役は「以前は『特殊なスポーツ』という認識があり、書き手に身構える意識もあったのではないかと分析する。

ただ、近年は新聞やテレビで多く紹介されるようになったこともあり、“風向き”は変わりつつある。「パラスポーツは競技として純粋に魅力的だし、迫力も十分。そう遠くないうちに、『キャプテン翼』の翼くんや『YAWARA!』の柔(やわら)ちゃんのようなヒーロー・ヒロインが生まれてくるのでは」。田中さんは、こう期待を寄せている。

<世界防災フォーラム>女性や障害者 参画重要

河北新報 2017年11月27日



海外からも大勢の参加者が集まり、「被災地発」の議論に加わった=26日、仙台国際センター

仙台市で開催されている「世界防災フォーラム」は日程2日目の26日、実質討議が始まり、青葉区の仙台国際センターなどで11のセッションがあった。東日本大震災の教訓や女性、障害者らが参画する地域防災の在り方などについて、議論を交わした。世界各国から訪れた参加者で震災の知見を共有し、「被災地発」の防災論議が熱を帯びた。

セッションは宮城県や仙台市、東北福祉大などが主催した。「被災地からの経験・教訓の共有と継承」と題した討議には、東北大や米国デラウェア大などの研究者ら6人が登壇。「生の声で直接被災体験を聴き、『自分事』として備える必要がある」「震災の伝承にはネットワークも大事」などの声が上がった。

仙台市で2015年にあった国連防災世界会議で採択された国際指針「仙台防災枠組」(15~30年)を踏まえ、女性や障害者の防災への参加に関するセッションも多かった。

「トーク×トーク 女性たちのリーダーシップ」では、女性が平時から防災やまちづくりに関わり、意思決定にも参画する必要性を確認。「高齢・障がい(共生社会)と地域防災」では障害への理解が不可欠とした上で、「当事者も声を上げて改善に努めよう」との意見表明があった。

「持続可能な防災まちづくりと防災人材育成」では、街歩きと防災学習を組み合わせたイベントに取り組む仙台市青葉区片平地区の事例が報告された。参加する地元の五橋中生が「次世代の私たちで(地域づくりの)中心を担いたい」と決意を語ると、聴講者から大きな拍手が送られた。

セッションに参加した外国語指導助手(ALT)の米国人サラ・オコーネルさん(22)=太白区=は「日本国内だけでなく世界の災害を学ぶことができた。米国でも災害が増えしており、学んだことを多くの人に伝えたい」と話した。

バリアフリー情報提供 心に寄り添う店拡大 買い物も手助け

茨城新聞 2017年11月27日

車椅子利用者の買い物に付き添うイオンつくば店のスタッフ=つくば市稲岡

車椅子などの障害者向けに、商業施設や店舗がバリアフリー情報をネットで公表した上で、店内での買い物を店員が手助けする取り組みが広がっている。情報は段差の有無から入り口ドアや通路の幅、トイレの形状まで詳しく公開。県内ではイオングループから中小店舗まで計 22 店で実施している。公表基準を作り、賛同企業を公表している



NPO 法人では「事前に情報を公表することで障害者が買い物に行きやすくなり、店が歓迎している気持ちを伝えられる。心のバリアフリーにつながる」と期待している。

■ネットで14項目

「トイレ入り口幅 60 センチ」「トイレ手すりあり」「店内段差なし」…。イオンモールつくば(つくば市稲岡)は、11 月から、店舗内のバリアフリーに関する情報についてネットで提供を始めた。公表するのは、電動車椅子などの利用者向けに、段差や手すり、エレベーターの有無、ドアやトイレの幅、車椅子の貸し出しに関する 14 項目の情報。1 センチ単位で細かく示している。

その上で、車椅子利用者が「高い棚にある商品が取れない」「重い買い物かごを移動させるのが難しい」といった場合、希望すれば従業員が付き添って買い物を手助けする。

イオンつくば店の小杉公二店長は「手助けは 5~6 人いるサービス介助士の認定取得者が行ってきたが、今後は従業員全員が同じようにハンディのある人と対話し、心に寄り添う店にしたい」と話した。

イオンは県内全 14 店舗を含め北関東・新潟カンパニーの計 67 店舗で、同様の取り組みを始めた。

■中小企業も実施

中小企業や個人店舗でも取り組む事業者が増えている。

ネイルサロン「スリーズバイネイル」(水戸市元吉田町)は、店舗内外の段差がなく、車椅子用トイレを用意。バリアフリーの情報を全てネットで提供している。バリアフリーが行き届いている理由は、同店の加藤愛店長自身が車椅子利用者であるためだ。バリアフリー化した上で、車椅子利用者の来店を呼び掛けている。加藤店長は「バリアフリーならなお良いが、完全でなくても、手助けをするなどのもてなしは十分できる」と強調する。

飲食店「石窯キッチン クロップ」(同市中央)も段差や駐車場などの情報を公開。同店の担当者は「店の前に段差はあるが、店員が全員で助けて車椅子利用者も喜んでもらえるようにしている」と語った。

■障害者の目線

バリアフリー情報の公開基準を作り、支援しているのは NPO 法人「ココロのバリアフリー計画」(本部東京)。車椅子利用者の池田君江理事長が「障害者の目線」に立った店づくりや接客を助言している。賛同店舗は全国のあらゆる業態で約 1500 店に広がっているという。池田理事長は自らの経験から「設備は整っていても、連絡すると来店を断られることもある。店側が障害者にウエルカム(歓迎)でないと行く勇気は出ない」と指摘。「バリアフリー情報を公開し、事前に手助けをしてくれる店かを確認できれば、出掛ける判断材料にできる。障害者だけでなく、ベビーカー利用者やお年寄りにも優しい店が増えていけば」と期待を込めた。

県内賛同店舗のバリアフリー情報は、<http://www.heartbarrierfree.com/area/ibaragi/>へ。(綿引正雄)

盲重複障害者に安心の場を 来春岐阜に施設開所へ、支援グループ発足



中日新聞 2017年11月27日
盲重複障害者向けの専門施設開設を目指し、グループの運営について話し合うメンバーら＝岐阜市北野町の県立岐阜盲学校で

全盲や弱視の視覚障害に、知的障害なども加わる「盲重複（もうちょうふく）障害」への理解を広めようと、障害のある子の親たちが岐阜市で支援グループを立ち上げた。県内には、盲学校を卒業後に安心して通える盲重複障害者のための専門施設がな

く、来春にも活動の場となる施設を市内につくろうと、準備を進めている。

グループは「盲重複障害児・者のこれからを考える会 ポコアポコ」。県立岐阜盲学校（岐阜市北野町）に通う児童、生徒の親らで今春に発足し、メンバーは二十八人になった。会の世話役で同校講師の渡辺美輝子さん（62）は「(対象となる)人数の少なさも、ほとんど知られていない障害」と話す。

目が見えないハンディキャップに、知的面での理解・判断力の発達遅れが重なり、情緒の不安から適応障害などの二次的障害を発症することも多い。渡辺さんは「症状は百人百様。それぞれの子どもに合わせたケアが必要」と力を込める。

ただ専門にケアできる施設は全国でもわずか。県内の福祉作業所などに通っても、適した環境が整っていないために孤立したり、適応できなかつたりして結局、在宅を余儀なくされることが多い。メンバーには盲学校を卒業後、自宅から離れた施設に入所したものの、慣れない生活になじめず、拒食や自傷行為で退所した男性もいる。

グループは盲重複障害者が安心して日中、活動に取り組める施設をつくろうと企画。こうした障害に理解あるスタッフを配置し、通所者がお菓子を焼いたり、手織りの布製品を作ったりする計画だ。既に岐阜市内に建物を借りており、来年四月からの運営開始を目指し、近く市に、生活介護事業所として申請する。資金は寄付を募っているほか、親子で作った手織りグッズなどを販売して集めている最中だ。

長男（5つ）に盲重複障害と脳性まひの身体障害がある副会長の木原奈央子さん（39）は「(盲重複障害者は) 予定通りに事が進まないで混乱するなど、自分のペースでしか動けない。そうした特徴を(スタッフに) 理解してもらい、安心して過ごせる場所が必要」と期待を寄せる。

グループ名の「ポコアポコ」は、音楽用語で「少しずつ」を意味する。渡辺さんは「名前の通り、ゆっくりと歩みながら、本人と家族が安心して過ごせるための場にしたい」と意気込んでいる。

問い合わせや寄付の協力などはインターネットで「ポコアポコ g i f u」と検索する。

◆高くない専門性

盲重複障害者の専門施設23施設でつくる「全国盲重複障害者福祉施設研究協議会」によると、全ての身体障害者の1割弱を占めるとされる視覚障害者のうち、盲重複障害者がどの程度いるかという統計はない。協議会に加盟する施設の利用者は約1000人だが、把握されていない潜在的な障害者は多いとみられる。

これまで、身体障害者福祉法と知的障害者福祉法の「法の谷間」の存在だった。2006年の法改正で、身体、知的、精神の3障害が一元化されたが、その後も支援の専門性は高まっていない。

協議会の担当者は「視覚障害を専門にケアできるスタッフですら少ないのに盲重複となればなおさら。支援の質を上げていく必要がある」と指摘している。（小倉貞俊）

文字読み上げる 便利な眼鏡体験 とやま市民交流館 中日新聞 2017年11月27日
文字を読み上げる眼鏡「OTONGLASS」を試す女性(右) = 富山市新富町で



文字を読み上げてくれる眼鏡「OTON GLASS (オトン・グラス)」の体験講座が二十六日、富山市新富町のとやま市民交流館であり、目の不自由な人や支援者ら四十八人が参加した。

眼鏡は、東京都港区のベンチャー企業「オトン・グラス」が開発。内蔵カメラが文字を撮影し、文字認識技術でテキストデータに変換する。フレームには日本語と英語のボタンがついており、ボタンを押すと、音声で教えてくれる。現在はコンピューターやスピーカーが別途必要だが、眼鏡だけで使えるように改良中。

同社員の田端俊也さん(29)が眼鏡の仕組みを説明。試してみた目の不自由な人は「音声が聞きやすかった」「うっかり踏んだりしてしまうので強度が必要」と感想を話した。

田端さんは「目は見えなくても、耳が聞こえる。障害者にはいろんな可能性がある」と商品に対する思いを話した。来夏に販売を計画しているという。(柘原由紀)

国民文化祭 奈良から引き継ぎ 大分合同新聞 2017年11月26日



荒井正吾奈良県知事から国民文化祭旗を受け取る二日市具正大分県副知事(右) = 26日午後、奈良市の

奈良県文化会館

第32回国民文化祭なら2017と第17回全国障害者芸術・文化祭なら大会の閉

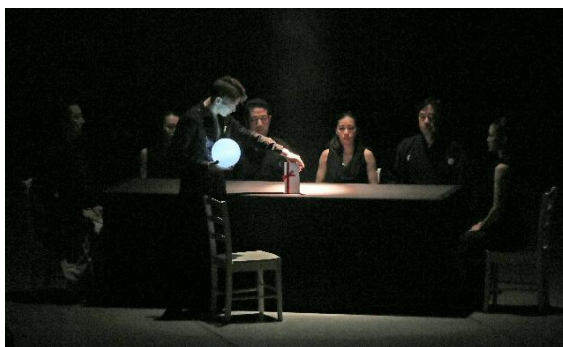
会式が26日、奈良市の奈良県文化会館であった。次期開催県の大分県は洋舞と日舞の創作舞踊「Invitation Card」を披露し、会場を埋めた聴衆への“招待状”としてドラマチックに演出。文化祭旗が奈良から大分へ引き継がれ、国内最大規模の文化の祭典をバトンタッチした。

奈良開催を振り返る映像や独特の節回しの相撲甚句で幕開け。若者が中心となった創作パフォーマンス「これからの1500年物語」では、さまざまな異文化を融合させながら発展してきた日本の歴史を踏まえ、情感豊かに表現した。

続く式典で中岡司文化庁次長、宮崎雅則厚生労働省障害保健福祉部長、荒井正吾奈良県知事があいさつ。両県のキャラクター「せんとくん」と「めじろん」の“立ち合い”で、二日市具正副知事が荒井知事から大会旗を受け取った。

二日市副知事は「大会旗のずっしりとした重みの中に国民文化祭の歴史と関係者の熱い思いを感じた。来年は『おおいた大茶会』をテーマに子どもからお年寄り、障害のある人ない人も、国籍関係なく集まる大会にしたい」と決意表明。各地の芸術文化を取り入れた「カルチャーツーリズム」の取り組みにも触れ、来県を呼び掛けた。

式典終盤は25日に東大寺であった宇佐神輿(みこし)フェスタ実行委員会メンバーが登壇。あらためて大分・奈良の歴史的な縁について紹介した。



大分県での開催は来年10月6日から11月25日まで。会場ではPR映像を流すなどアピールに余念がなかった

開園から半年、病児・病後児 100 人利用 大田原、金丸こども園



下野新聞 2017年11月27日

小児科医と看護師、保育士らが子どもの症例などについて意見を交わすカンファレンス

【大田原】市内初の病児保育、休日保育などを行う北金丸の幼保連携型認定こども園「国際医療福祉大 金丸こども園」が、開園から半年をすぎた。同系列の医療型施設と連携しながら多様なニーズに対応しており、病児・病後児保育で延べ計約100人が利用した。共働き家庭などのセーフティネットとして認知されてきた一方、高まる休日保育の需

要にどう応えていくかなどの課題も見えてきた。

「〇〇ちゃんは水を飲む時むせます」

「ST（言語聴覚士）にも見てもらおうか」

同園で月1回開かれるカンファレンス（症例検討会）。24日の検討会では保育士や看護師の質問に隣接する医療型障害児入所施設「なす療育園」の小児科医3人が丁寧に答えていた。感染症、アレルギー、発達障害など疑いのある事例も含め、相談は多岐にわたる。

医師が下支えする中、同園児以外も対象とする病児・病後児保育の登録者は、4月の開園当初の約280人から9月末で約400人に増加。毎月約10人で推移していた利用者は7月以降倍増し、8月は感染症の流行に伴い32人に達した。

福井大に教職大学院、設置審答申

福井新聞 2017年11月27日

【10年前のきょう・2007年11月27日】大学設置・学校法人審議会は二十七日、福井大など全国計十九校の教職大学院の新設を認めるよう渡海紀三朗文部科学相に答申、回答した。教職大学院は、教育現場で中核を担う中堅教員や実践的な指導力を備えた新人教員を養成するのが目的。福井大は、専任教官が院生の教員が勤める学校に直接出向く独自の“出前講義”方式で、授業の進め方やカリキュラム編成などについて教員と共に事例研究を進める。募集定員は三十人で、来年四月にスタートする。

福井大教職大学院は、大学院教育学研究科を改組し、学校教育専攻の中の学校改革実践研究コースを発展させた「教職開発専攻」として創設。現在の学校教育専攻と障害児教育専攻は一本化して「学校教育専攻」とする。

在宅療養への移行促す…診療報酬・介護報酬、同時改定 読売新聞 2017年11月27日

来年4月の診療報酬・介護報酬の同時改定では、団塊の世代全員が75歳以上になる「2025年問題」への対応が重要テーマとなる。医療では、重症者向けの過剰な急性期病床を減らす一方、患者にリハビリテーションなどを行い、早く在宅療養に移行できるようにしていく。

「以前より足が出るようになりましたね」

石川県南西部の能美市にある 芳珠 記念病院（320床）。廊下で歩行訓練を行う男性患者（80）に、理学療法士の岩上倫太郎さん（27）が付き添う。

この患者が入院しているのは、在宅復帰を支援する地域包括ケア病棟だ。多職種が連携してリハビリなどを行う。地域包括ケア病棟協会によると、全国約2000病院にあり、推計約6万4000床に上る。

同病院の地域包括ケア病棟はこれまでに延べ約4600人の患者を受け入れた。退院後に自宅などに戻る割合（在宅復帰率）は88%に上る。協会会長の仲井 培雄さんは『ときどき入院 ほぼ在宅』を目指す上で、この病棟が果たす役割は大きい」と力を込める。



病棟（病床）は、機能に応じて看護師の配置数などが異なる。患者7人に看護師1人と、手厚い体制でがん患者などをみる「7対1病床」は入院基本料が最も高く、約35万床と多い。14年度に9万床の削減が打ち出されたが、微減にとどまる。

来年度の改定では、7対1に必要な要件のうち重症患者の割合を上げるなどして、絞り込みを図る方向だ。一方、介護への橋渡し役にもなる地域包括ケア病棟は報酬を手厚くして、7対1病床などからの転換を促すことが検討されている。

京都市の市街地にある堀川病院（236床）は14年8月、7対1病床の一部を転換し、地域包括ケア病棟（104床）を設けた。事務長の山田正明さんは「それまでの7対1には、手厚い看護が必要ない、症状が安定した患者なども入院していた。周りの大きな急性期病院と競うのは、この病院の役割ではないと判断した」と語る。

近くには京都大学病院などの大病院も多く、他病院との連携を強化する。医療提供体制の効率化に向け、それぞれの地域で病院の役割分担が求められている。

紹介状なし 追加負担の対象拡大

次期改定では、「かかりつけ医」「かかりつけ薬剤師」の普及を加速させることも大きな課題だ。

ありふれた病気でも大病院を受診する患者が後を絶たない。そのため紹介状なしで受診した患者から初診時に、5000円以上の追加負担を求めなければならない病院の範囲を、現在の500床以上（約260病院）から広げる方針だ。これにより身近な「かかりつけ医」への受診を促す。

また、患者ごとの服薬情報を管理する「かかりつけ薬剤師」では、「かかりつけ」の機能を発揮した場合に報酬を上乗せするか検討する。

このほか、スマートフォンなどによる遠隔診療は報酬をつける対象を増やす方針。糖尿病などの重症化予防で、日常的な健康指導などに活用してもらう。薬価部分では、がん治療薬「オプジーボ」など高額薬が相次いで登場するなか、費用対効果が悪い場合、価格を

引き下げる。

＜診療報酬・介護報酬＞ 診療報酬は医療行為や薬の対価として医療機関や薬局が受け取るお金。介護報酬は介護サービスを提供した事業者が受け取るお金。報酬は、国が望ましい方向に医療機関や介護事業者を誘導する手段にもなっている。来年度は6年に1度の同時改定にあたる。(西原和紀)

【主張】社会保障改革 「俯瞰の目」で全体像描け 産経新聞 2017年11月27日
安倍晋三首相



自民、公明、旧民主の3党合意に基づく社会保障・税一体改革は大きく変質した。安倍晋三首相は今後の対応について、国民に丁寧な説明を行う責務がある。

というのも、社会保障制度をどう改革していくかの道筋が、不明確になってきたからだ。

特別国会は絶好のチャンスといえよう。予算委員会では深みのある論戦を聞きたい。

一体改革は、団塊世代が高齢化することへの対応を念頭に置いたものだった。

それが大きく形を変えたのは、首相が先の衆院選で幼児教育・保育や高等教育の無償化を掲げ、消費税率引き上げの増収分の使途変更を打ち出したためだ。

深刻な少子化を克服していくために、子育て世代が抱える不安を解消するという方向性は間違っていない。手厚すぎる高齢者向けサービスの見直し、医療・介護の無駄をなくす努力も欠かせないものである。

とはいえ、財源にもサービスカットにも限りがある。社会保障の「全世代型」を目指すからと、子育て支援策をいたずらに膨張させてよいわけがない。反対に、高齢者向け政策が極端に縮小し、必要な人にサービスが届かなくなるのでは本末転倒となる。

無償化にしても、不明確な点が少なくない。衆院選の公約にはなかった保育士の処遇改善などのメニューが浮上している。それ自体が悪いのではないが、明確な財源策が伴っていない。

大盤振る舞いを思わせる動きの一方で、財務省は社会保障費の伸びの抑制を求めている。何ともちぐはぐな印象を漂わせる。

国会では無償化に論点が集中しそうだが、いまこそ全体のバランスを図る俯瞰（ふかん）の目が必要だ。

例えば、晩婚・晩産が進み、子育て世代が親の介護も行うダブルケアが増えてきたことだ。子育て政策の充実だけで、若い世代の支援になるとは限らない。

均衡のとれた制度を構築するには、首相がまず消費税率10%後も見越した大きな構想を示すことが求められる。その上で、一体改革を描き直す必要があるだろう。

超長期を展望しなければならない社会保障制度は、党派を超えた合意を基本とすべきだ。無償化論議に矮小（わいしょう）化することなく、社会保障制度の将来を見据えた議論をかわしてもらいたい。

月刊情報誌「太陽の子」、隔月本人新聞「青空新聞」、社内誌「つなぐちゃんベクトル」、ネット情報「たまにブログ」も

